

江南市社会福祉協議会のあゆみ

(目次)

江南市社会福祉協議会会長あいさつ	2
江南市長あいさつ	3
江南市議会議長あいさつ	4
江南市社会福祉協議会の概要	5
(1)誰もがふだんのくらしのしあわせを実現できるまちづくりに向けて	
(2)江南市地域福祉計画・地域福祉活動計画	
(3)江南市立福祉センター内のあゆみ	
江南市社会福祉協議会の誕生 ～40年のあゆみ～	11
江南市社会福祉協議会の主な事業について	26
財政状況	43
江南市社会福祉協議会歴代会長	46

江南市社会福祉協議会 会長 石川 勇男



40周年記念誌発刊にあたり

江南市社会福祉協議会は、昭和54年12月に社会福祉法人として設立され、本年で40周年を迎えることができました。平素より社会福祉協議会の福祉活動につきまして、格別のご支援とご協力を賜り、職員一同心より御礼申し上げます。

社会福祉協議会は、社会福祉法第109条に規定された「地域福祉の中核的な役割を担う団体」として位置づけられています。人と人のつながりを大切に、誰もが住み慣れた地域で安心した暮らしができるよう、地域共生社会の実現を目指して、地域住民や社会福祉関係者等と協働しながら、「総合支援型社協(コミュニティソーシャルワーク)」の構築を目指しております。

本会におきましては、平成27年4月より生活困窮者自立支援法が施行される中、市行政と相談支援体制の検討を進め「生活困窮者自立相談支援事業」を受託し、暮らしに困っている人々が抱える経済的な問題、社会的な孤立等の複雑に絡み合った課題に対して支援が行えるよう体制づくりを行いました。

平成29年4月より介護保険制度の改正に伴い、「介護予防・日常生活支援総合事業」への移行に対応するとともに、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくために、通える居場所があることや地域で助け合い、支えあう仕組みづくりが求められている中、市行政と支援体制の検討を重ね「江南市生活支援体制整備事業」を受託し、生活支援コーディネーターを配置し、市行政、地域包括支援センター、地域住民等と協働しながら日常生活圏域を基盤とした地域づくりを推進しています。

令和3年4月からは、市から受託している「障害者基幹相談支援センター」の人員体制を強化し、障がい児(者)とその家族の方が、地域の中心で安心して暮らしていけるように相談支援の中核的な役割を担っていきます。

本会では、職員一同決意を新たに、新しい時代の地域福祉の実現と推進を目指して全力を傾注する所存であります。市民の皆様、関係者の皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。記念誌発刊のご挨拶といたします。

江南市
市長 澤田 和延



40周年記念誌発刊によせて

江南市社会福祉協議会が法人設立40周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。貴社会福祉協議会は、昭和54年の設立以降、市民福祉の向上とともに、本市の福祉行政の推進に大きくご貢献いただいておりますことに対し、厚くお礼申し上げます。

さて、地域福祉を取り巻く状況につきましては、昨今の社会情勢の変化に伴い大きく変化しており、地域社会における福祉活動の重要性も高まっていると考えられます。国におきましては、平成28年7月に「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部を設置し、平成30年4月には改正社会福祉法を施行し、地域福祉推進の理念の実現に向けて、市町村が包括的な支援体制づくりに努める旨が規定されたところであります。

そのような状況の中、本市におきましては、平成30年3月に各福祉分野に係る計画の上位計画として位置づけられ、分野横断的に福祉施策を進めることを目的とした「江南市地域福祉計画・地域福祉活動計画」を策定しております。この計画は、市として初めての策定となる地域福祉計画と貴社会福祉協議会により以前から推進されていまして地域福祉活動計画を合同で一体の計画として策定したもので、この計画の推進におきましても、推進会議等に委員として参加していただき、各福祉施策の推進による地域共生社会の実現にご協力をいただいているところであります。

また、貴社会福祉協議会におきましては、老人福祉事業や障害者福祉事業を始めとした各福祉関連事業を幅広く行っており、近年は福祉のための交流の場として「地域交流スペースみらい」を開設し、また、サロン団体による連携の促進を目的とした「社協つながりプロジェクト」を実施するなど、着々と地域における福祉の専門機関としての役割を果たしておられます。

結びにあたり、今後とも、本市とより一層緊密な連携を深めながら、引き続き社会福祉事業発展にご尽力いただきますようお願い申し上げますとともに、皆様方の益々のご活躍と貴社会福祉協議会のご発展をお祈り申し上げまして、お祝いの挨拶といたします。

江南市議会
議長 野下 達哉



40周年を祝って

社会福祉法人江南市社会福祉協議会が設立40周年を迎えられ記念誌を発刊されますことに、心からお祝いを申し上げます。

貴社会福祉協議会におかれましては、「ふくしー誰もがふだんのくらしのしあわせを実現できるまちづくり」を目指し、子どもから高齢者まで、幅広い年齢層の方々を対象に、数多くの事業を展開されており、本市の地域福祉の担い手として、中心的役割を担っていただいております。

この間における関係各位の並々ならぬご労苦、ご努力には、深く敬意を表すと共に、改めて感謝申し上げたいと思います。

近年、急激な高齢化の進行や、人口減少による社会構造の変化などに伴い、福祉に対する市民のニーズは多様なものとなってきており、年齢や障がいの有無にかかわらず、市民誰もが安心して充実した生活を送るために、地域福祉の推進を図る社会福祉協議会への期待が高まっています。地域福祉推進の中核的な役割を担う団体としてふさわしい活動に市議会も期待しております。

また、新型コロナウイルス感染症に対する、支援体制の整備を進めるうえで、貴社会福祉協議会の存在はますます重要なものとなっております。

福祉の充実、市民の願いであり、この設立40周年という節目を新たな出発点とし、貴社会福祉協議会が一層の飛躍を果たされとともに、名実ともに住民福祉の拠点として、現場の実践者として、その真価を遺憾なく発揮され、引き続き地域福祉推進の一翼を担っていただきますよう心からご期待申し上げます。

市議会といたしましても、市民の皆様が江南市で安心して暮らせるよう心の通ったまちづくりに努めてまいりますので、今後ともより一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後に、江南市社会福祉協議会の一層のご発展を祈念しまして、お祝いのことばといたします。

社会福祉協議会とは

民間の社会福祉活動を推進することを目的とした営利を目的としない民間組織です。昭和26年に制定された社会福祉事業法(現在の「社会福祉法」)に基づき、設置されています。都道府県、市区町村ごとに1か所ずつ設置されており、地域に暮らす皆様のほか、民生委員児童委員、社会福祉施設・社会福祉法人等の社会福祉関係者、保健・医療・教育等、関係機関の参加・協力のもと、地域の人々が住み慣れたまちで安心して生活することのできる「福祉のまちづくり」の実現をめざした様々な活動を行っています。

財源

会費や寄付金を基盤とし、介護保険収入や江南市からの受託金等で運営しています。江南市社協の地域福祉活動にご理解をいただき、財政的に支える形で地域福祉に参加いただける方が社協の会員です。社協の活動は会員のみなさまの会費によって支えられています。

会費の種類と金額(年間)

個人会費 1回 100円

各世帯に2口以上を目安にご協力いただいている会費です。

特別会費 1回 1,000円

社協事業にご賛同いただいていた方で特に大口でご協力いただいている会費です。

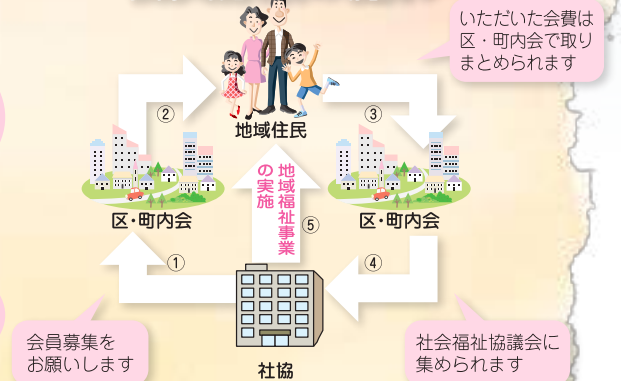
法人会費 1回 1,000円

市内の企業よりご協力いただいている会費です。

施設会費 1回 2,000円

市内の福祉施設にご協力いただいている会費です。

会員募集の流れ



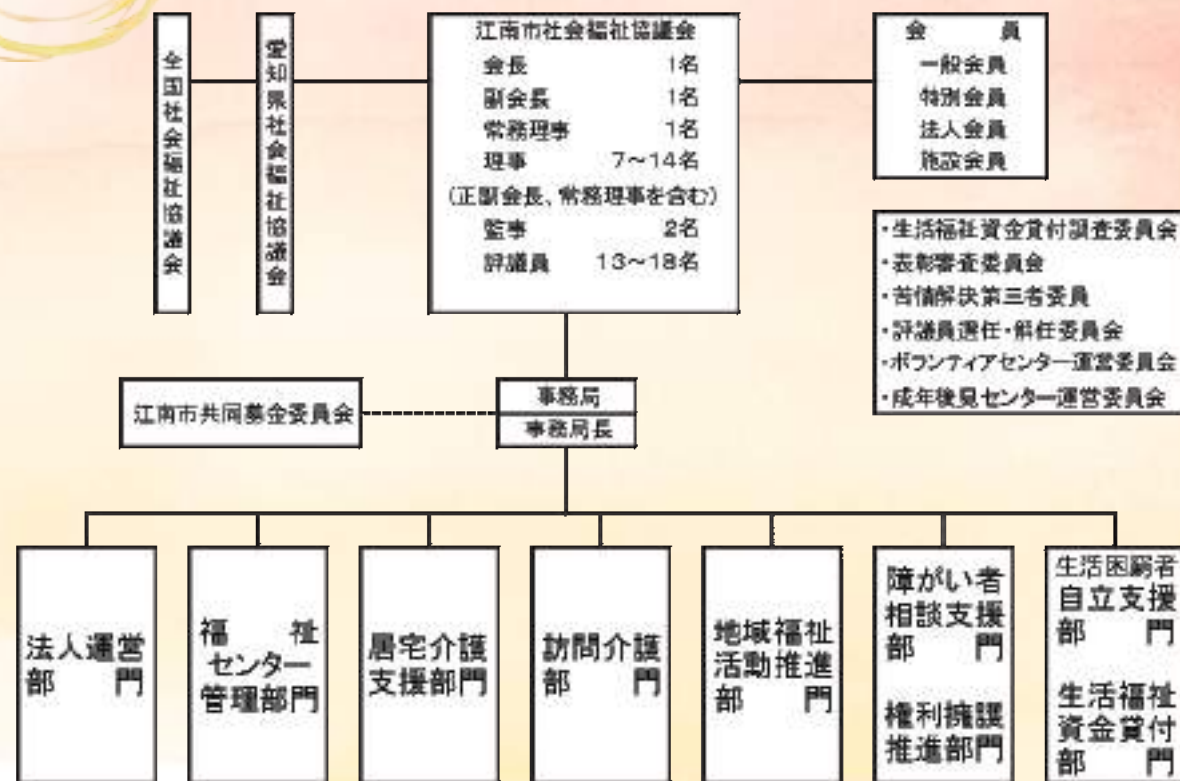
誰もが ふだんのくらしのしあわせを 実現できるまちづくりに向けて

江南市社会福祉協議会(以下、江南市社協)は、昭和30年4月1日に任意の団体として発足し、昭和54年12月12日に社会福祉法人として認可され、令和2年に法人設立40周年を迎えました。

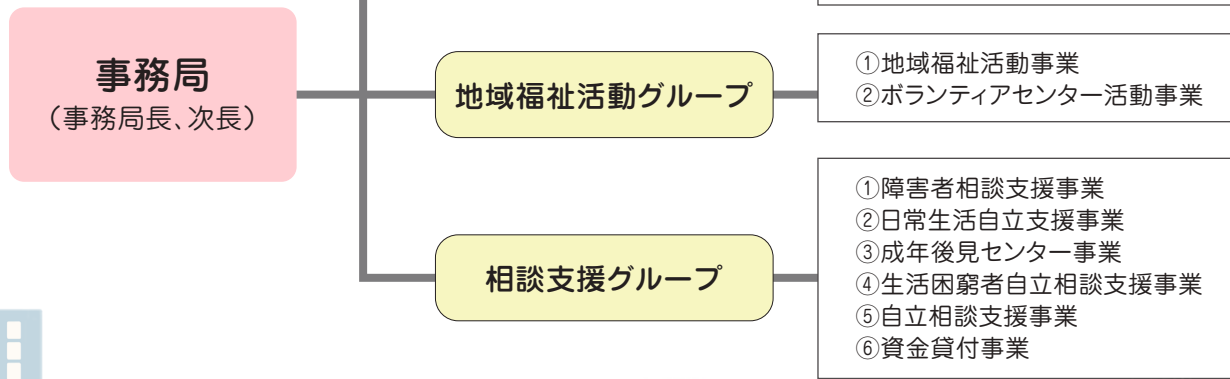
平成30年度からは江南市と江南市社協で地域福祉の推進を一体的に策定した「江南市地域福祉計画・地域福祉活動計画」に基づき、地域住民やボランティア、NPO、民生委員児童委員、町内会・自治会、老人クラブ、福祉施設、企業及び行政機関等様々な方や団体との協働しながら地域づくりを取り組んでいます。

組織図

江南市社協は、地域の住民やボランティア、福祉、保健等の関係者と行政機関で構成する民間非営利の社会福祉法人です。



江南市社協の 各グループ、事業一覧



江南市地域福祉計画・地域福祉活動計画

重点的な取り組み

重点プロジェクト

計画の策定にあたって

江南市社協は、平成16年度に「福祉力アップで暮らしの安心」を基本理念とする第1次地域福祉活動計画を作成し、地域福祉の推進のために事業を行ってきました。

近年、人口減少や急速な高齢化、地域社会の脆弱化等の社会構造が変化し、福祉ニーズの多様化、複雑化が進んでいます。その中で「地域共生社会」として、制度・分野の枠や「支える側」「支えられる側」という従来の関係を超えて、人と人、人と社会がつながり、一人ひとりが生きがいや役割を持ち、助け合いながらの暮らしが求められています。

そのようなことを踏まえ、住民の立場から地域全体で取り組む活動・行動計画として、江南市と江南市社協では、地域での助け合いや支え合いの仕組みづくりとして、江南市では初めてとなる「地域福祉計画」と江南市社協の「地域福祉活動計画」を平成28年～29年の2年間かけて一体的に策定しました。

平成30年度からは地域福祉計画・地域福祉活動計画に基づき、江南市、江南市社協が相互に連携・協力しながら、一体的に地域福祉の推進を目指しています。またPDCAサイクルによる進捗管理と評価を行い、計画を推進していきます。

1

子どもも大人も
福祉を学び、実践しよう!

2

地域福祉を進める
「活動主体者」になろう!

3

地域がつながり、
活動を充実させよう!

基本目標	施策の方向性	施策
1 福祉の 「心」 をはぐくむ	1 地域福祉についての意識の醸成	1 地域福祉の重要性についての情報発信 2 福祉教育の推進
	2 地域の関係を深めるきっかけづくり	1 隣近所での顔の見える関係づくり
	3 市民が活動・交流できる場の提供	1 高齢者や障害のある人、子育て家庭の居場所づくり 2 多世代交流の促進
2 地域福祉を進める 「人」 をつくる	1 活動の担い手の育成	1 活動に取り組むきっかけづくり 2 新たな担い手の確保
	2 福祉を進める活動主体者への支援	1 市民・協働ステーション、ボランティアセンターの充実 2 地域福祉活動への支援
3 地域福祉推進の 「しくみ」 をつくる	1 必要な人に必要な支援を届けるための体制の充実	1 総合的な相談支援体制の充実 2 福祉サービスの利用支援
	2 多様な主体の参画促進	1 介護予防・健康づくりをきっかけとした地域活動の促進
	3 小地域福祉活動の推進	1 地域コミュニティ機能の強化 2 地域におけるコーディネート機能の強化
4 安心・安全な暮らしの 「環境」 をつくる	1 自立を促す支援の推進	1 生活困窮者等への支援
	2 共に生きるまちづくりの推進	1 地域共生社会の実現に向けた理解の浸透 2 バリアフリー化・ユニバーサルデザインの推進 3 外出支援の推進
	3 権利擁護対策の推進	1 権利を守る支援策の利用促進 2 虐待やDVの早期発見・早期対応
	4 防災・防犯対策の推進	1 災害時に備えた地域体制づくり 2 地域における防犯力の強化

計画の基本目標
 「みんなで支え、みんなで育む」「あわせ」なまち江南を
 達成するため次の4つの基本目標

福祉の「心」をはぐくむ 1

地域住民の福祉意識の醸成、地域間のつながり・相互扶助意識の強化を目的に、各種広報媒体による啓発、福祉教育の推進、あいさつ活動の活性化等の施策を展開します。また、身近な地域で市民同士が交流できる機会・場の提供を図ります。

地域福祉を進める「人」をつくる 2

地域福祉推進の基盤を整備するため、新たな担い手の育成を進めるとともに、ボランティア団体や民生委員・児童委員といった活動主体者への支援を進めます。

地域福祉推進の「しくみ」をつくる 3

支援を必要としている人を適切な支援へとつなげられるよう、サービスの拡充や相談支援・情報提供体制の強化を図ります。また、総合事業の開始を踏まえた多様な主体によるサービス提供の基盤づくりを進めるとともに、地域の情報を関係機関で共有し、連携しながら解決できる小地域福祉活動推進の基盤づくりを進めます。

安心・安全な暮らしの「環境」をつくる 4

生活困窮者への自立支援等、困難を抱えた人への支援を行うとともに、「地域共生社会」の実現に向けたソフト・ハード両面のバリアフリー化を進めます。
また、権利擁護に関する施策や、地域防災体制の強化、見守り体制の強化等により、安心・安全な地域づくりを進めます。



江南市立福祉センター内のあゆみ

昭和54年度
1979

社会福祉法人江南市社会福祉協議会
事務所を江南市立福祉センター内に開設



江南市立福祉センター内の
階段折り返し部分に鏡を設置
(歩行者の衝突回避)



平成11年度
1999

江南市立福祉センター内に
エレベーター設置・運用



平成27年度
2015

生活困窮者自立相談支援事業事務所設置



平成30年度
2018

地域交流スペースみらい、ボランティア
ルーム、更生保護サポートセンター開設

地域交流スペースみらい
Chiiki koryu space Mirai



現在に至る

昭和60年度
1985

江南市立福祉センター内に録音室整備



江南市社会福祉協議会の誕生

～40年のあゆみ～

江南市社会福祉協議会の変遷	
昭和30年 1955～	江南市社会福祉協議会が任意団体として発足
昭和54年 1979	社会福祉法人江南市社会福祉協議会の設立認可(昭和54年12月12日) 江南市社会福祉協議会事務所を江南市立福祉センター内に開設 世帯更生資金貸付事務受託
昭和55年 1980	社会福祉法人江南市社会福祉協議会市民福祉基金設置規程制定 社会福祉法人江南市社会福祉協議会世帯更生資金貸付調査委員会規程制定 社会福祉法人江南市社会福祉協議会会員規程制定 社会福祉法人江南市社会福祉協議会会費徴収規程制定 社会福祉法人江南市社会福祉協議会職員の身分保証規程制定 ボランティアセンター設置及び運営に関する規程制定 母子福祉会新入学・進学及び卒業児激励会事業開始 優良子ども会表彰事業開始 児童文化活動(遊び場設置・遊具設置・修理)事業開始 敬老会を江南市と共催開始 社協だより発行開始

任意団体から社会福祉法人へ

昭和30年から任意団体として、地域住民の参画を得ながら各種福祉の推進に向けたサービスや活動等を実施しました。そして、地域住民にも認知されるようになった昭和54年、より安定的に社会福祉事業を進めるために、社会福祉法人化することになりました。

社協だよりの発行開始

現在も偶数月に1回発行されている「社協だより」は昭和55年から途切れることなく地域住民に対して身近な福祉の情報等を発信し続けています。令和2年12月現在は、第193号を迎えています。



昭和56年→昭和60年

1981年～1985年

江南市社会福祉協議会の変遷	
昭和56年 1981	社会福祉法人江南市社会福祉協議会表彰規程制定 社会福祉法人江南市社会福祉協議会慶弔及び見舞金等に関する規程制定 社会福祉法人江南市社会事務局規程 社会福祉法人江南市社会福祉協議会決裁規程制定 社会福祉法人江南市社会福祉協議会事務局文書編さん及び保存規程制定 愛知県社会福祉協議会社会福祉協力校事業開始 満100歳誕生祝い開始 結婚50年祝い開始 ねたきり老人・障害者介護者表彰実施 地域歳末たすけあい配分開始 歳末たすけあい報道関係配分開始 ボランティア入門講座開始 手話・点字入門講座開始 福祉実践教室開始
昭和57年 1982	第1回社会福祉大会開催 赤い羽根児童文化活動事業「児童文庫」開始
昭和58年 1983	江南市社会福祉協議会社会福祉協力校事業開始 老人福祉センター管理を市から受託開始 江南市社協に福祉活動専門員配置開始
昭和59年 1984	声の広報ボランティア事業開始 福祉講演会実施 朗読講習会開始 中学生・高校生短期ユースアクション開始
昭和60年 1985	国際婦人年記念事業実施

福祉実践教室事業の開始

昭和56年の「国際障害者年」を記念し、障がい者への正しい理解と福祉向上をめざすことを目的として開始され、愛知県内の小・中・高校生を対象に、市町村社協の主催で実施しています。現在も年間延べ2,600名の児童、生徒が「ふくし」について学びを深めています。

各種ボランティアの講座実施

ボランティア入門講座を始め、手話・点字入門講座、中学生・高校生短期ユースアクション等、現在のボランティアセンターの講座につながる講座や事業が開始された年代でした。



第1回社会福祉大会の様子



昭和61年→平成4年

1986年～1992年

江南市社会福祉協議会の変遷	
昭和61年 1986	歳末たすけあい募金ねたきり老人配分事業開始 母子家庭児童生徒新入学卒業生激励会開始 心身障害者児ふれあいキャンプ実施 初級ボランティアスクール開始
昭和62年 1987	中学生夏休み手話集中教室開始 レクリエーション講習会開始
昭和63年 1988	婦人ボランティア講座開始 ボランティアジュニアリーダー養成講座開始 福祉入門講座開始
平成元年 1989	ボランティア活動紹介冊子発行 児童館書画展入賞者表彰 防犯対策ブザーセット支給 ガイドヘルプ講習会実施 福祉映画祭開始
平成2年 1990	点字触読講習会実施 ボランティアセンター開設10周年記念事業実施
平成3年 1991	ディサービス事業を市から受託開始 ねたきり老人介護者のつどい開始 福祉ミニ実践教室開始 要約筆記講習会開始 老人介護講習会開始
平成4年 1992	ホームヘルパー派遣事業を市から受託 広報誌「ボランティアセンターだより」発行 福祉を考える中高生の集い実施 高齢者と保育園児とのふれあい事業開始 中級手話講座開始

ボランティアセンター 開設10周年記念事業

平成2年にボランティアセンターが開設10周年を記念して、活動中のボランティアグループが各グループの交流と参加者への学習、交流会を目的に実施した。ボランティアセンター運営委員会内で打ち合わせ等を重ねながら実施しました。

ボランティアセンターだより発行

ボランティア活動を通じて感じていることや問題点等を地域の方々幅広く知ってもらうために、ボランティアPR紙として、各ボランティアグループが順番に記事を作成し周知を行いました。



平成5年→平成10年

1993年～1998年

江南市社会福祉協議会の変遷	
平成5年 1993	車椅子移送用リフト付き自動車設置 社協のしおり発行 ボランティア活動広報発行
平成6年 1994	字幕付き日本映画会開始 ふれあい広場実施 生活福祉資金活性化モデル事業実施 住宅環境改善サービス事業開始 市民福祉講座開催 中学生夏休み点字教室実施 ボランティア入門講座開始 ボランティア相談開始
平成7年 1995	介護講座開始
平成8年 1996	ボランティア交流会開始 親子ボランティア講座実施 移送ボランティア講座実施 点字通信講座開始 男性のための介護講座実施 中学生夏休み要約筆記教室開始 阪神・淡路大地震神戸市民語り部講演会実施
平成9年 1997	介護相談会開始 福祉救援ボランティア研修実施 ねたきりにさせないための介護研修開始 高校生介護等体験学習実施
平成10年 1998	中央コミュニティ・センター休日開放事業を市から受託 夏休み手話・点字・要約筆記教室実施 施設ボランティア入門講座実施 精神保健ボランティアセミナー実施 子ども福祉塾開始 ボランティア相談が専任相談員制に変更

ボランティア相談開始

ボランティアセンター運営委員会でボランティア相談の開設に向けて打ち合わせを重ね、平成6年よりボランティアグループ持ち回りで相談対応を実施。平成10年からは専任相談員制(ボランティア相談員)に変更し、ボランティアをしたい人、してほしい人の身近な相談ができる体制として活動しました。

現在も体制を変えながら、ボランティアセンターの活動として継続して実施しています。

子ども福祉塾の開始

平成10年から地域を基盤とした福祉教育の一環として、小学校4年生から6年生を対象に「車いすに乗って買い物体験」「施設の障がい者と料理づくり」等、地域における福祉教育プログラムを実施しています。

過去の参加者が大人になり、福祉施設の職員や学校の先生等、受講者が学びを通じて福祉分野を目指す、きっかけにもつなっています。現在までの受講者は延べ200名を超えています。



平成11年→平成16年

1999年～2004年

江南市社会福祉協議会の変遷	
平成11年 1999	男性ボランティア講座実施 福祉音楽コンサート実施 出前福祉講座開始 障害者対象の青年学級開催 視覚障害者点字通信講座開催 訪問介護事業所指定 居宅介護支援事業所指定
平成12年 2000	第13回江南市社会福祉大会開催 江南市社協設立20周年記念誌の発行 地域福祉サービスセンター事業開始 指定居宅介護支援事業開始 指定訪問介護事業開始
平成13年 2001	ボランティア国際年事業を実施 ボランティアセンター講演会を開催
平成14年 2002	ホームページ開設 精神障害者ホームヘルパー受託事業開始 福祉サービスに関する苦情解決第三者委員を設置
平成15年 2003	障がい(児)者支援費制度訪問介護事業実施 ふれあい・いきいきサロン事業開始 高齢者ふれあい食事会事業開始 公募制地域活動支援事業開始
平成16年 2004	第1次江南市地域福祉活動計画策定 広報事業第三者評価委員会設置 江南レジャー・レクリエーションスポーツ大会開催 子ども福祉塾サポーター養成講座事業開始



江南市社協ホームページ開設

平成14年に本会ホームページを作成しました。平成22年には、愛知県社会福祉協議会から『福祉でまちづくり総合推進事業助成』をいただき、現在も利用しているホームページにリニューアルしました。

現在はスマートフォンやインターネットの普及により、ホームページを見て、江南市社協に問合せをする方が増加しています。

ふれあい・いきいきサロン事業開始

平成15年より地域の居場所づくり活動である「ふれあい・いきいきサロン」事業が始まりました。現在は、延べ35か所市内に存在するサロンですが、この年の1か所(ほのぼのサロン)から着実に地域に根づく活動につながっていきました。



平成17年→平成21年

2005年～2009年

江南市社会福祉協議会の変遷	
平成17年 2005	第14回江南市社会福祉大会開催 愛知県社会福祉協議会協働モデル事業「福祉教育プログラム開発事業」を実施 江南市福祉教育セミナー開催
平成18年 2006	江南市老人福祉センター及び江南市中央コミュニティ・センターを江南市より指定管理者として受託 公募制地域活動支援事業公開プレゼンテーション審査会開始 全国ボランティアフェスティバルあいち・なごやプレフェスティバル参加 防災ボランティアコーディネーター養成講座開催
平成19年 2007	全国ボランティアフェスティバルあいち・なごや開催 愛知県社会福祉協議会との災害時応援協定による西尾張ブロック幹事社協としての業務推進 公募制障がい児・者地域生活支援事業開始
平成20年 2008	福祉ボランティアふれあいまつり事業開始 西尾張ブロックボランティアフェスティバルをすいとびあ江南にて開催 障がい者施設地域交流助成事業開始 精神障がい者の居場所づくり(フリースペース)事業の支援
平成21年 2009	第2次江南市地域福祉活動計画策定 当事者との人間関係を深めるための傾聴講演会開催 弁護士による無料法律相談事業開始

福祉教育プログラム開発事業実施

平成17年から18年度に愛知県社協より2年間指定を受けたモデル事業を実施し、門弟山小学校を研究モデル校に指定し、総合的な学習の時間における福祉学習プログラムサポート事業を行いました。

この取り組みは現在、布袋小学校、布袋北小学校、古知野東小学校と広がり、継続事業となっています。

公募制地域活動支援事業プレゼンテーション審査会開始

平成18年から赤い羽根共同募金を財源に、江南市内のボランティア活動団体や市民活動団体等が行う事業を公募し、助成額を大人審査員、大人特別審査員、子ども審査員、各持ち点を申請団体に投票し、順位を決めて団体への助成額を決めるプレゼンテーション審査会。

この取り組みは、赤い羽根の使い途を理解する機会としても効果がありました。



平成22年→平成24年

2010年～2012年

江南市社会福祉協議会の変遷		世相
平成22年 2010	江南市社協設立30周年記念江南市社会福祉大会開催 江南市社協設立30周年記念誌の発行 江南市成年後見センター事業開始	待機児童過去最多 上海万博開催 鈴木章、根岸栄一ノーベル化学賞受賞
平成23年 2011	東日本大震災被災地への災害ボランティアセンターへの職員派遣 江南市社協ボランティアセンターガイドブックの発行 地域福祉実践事例集の発行 福祉教育プログラムマニュアル事例集の発行	東日本大震災 なでしこジャパン国民栄誉賞 小笠原諸島がユネスコ世界遺産に登録
平成24年 2012	ふくし江南ふれあいまつり事業開始 精神障がい者の地域の居場所づくりフォーラムの開催 介助犬PR事業開始 江南市社協ホームページリニューアル	東京スカイツリー開業 ロンドンオリンピック・パラリンピック開幕 京都大学教授 山中伸弥ノーベル医学・生理学賞IPS細胞



平成22年→平成24年

2010年～2012年

江南市成年後見センター運営

地域福祉サービスセンターの機能強化として、弁護士の協力を得て、高齢者や障がい者の権利擁護に関する無料法律相談を実施するとともに、社会的支援が必要な方に対する後見業務の受任等を行い、利用者が安心して暮らせる支援体制を整えました。



東日本大震災被災地への災害ボランティアセンターへの職員派遣

岩手県大船渡市、大槌町災害ボランティアセンターへの長期に渡る職員派遣を行い、災害ボランティアセンターの運営支援、被災地社協の組織運営の支援等を通じ、被災地支援を実施しました。



ふくし江南ふれあいまつり事業開始

平成20年「福祉ボランティアふれあいまつり」から、より発展的な内容の充実を図るため、平成23年は実施せず、実行委員会としての検討期間を設け、近隣で行うイベントの視察等を実施後、平成25年より福祉関係者、関係機関、市民活動団体等と協働しながら、多くの市民の方々への啓発、交流の場へと内容を変更し、ボランティア活動や福祉活動の理解促進の事業に変更しました。

平成28年からは、江南市民健康フェスティバルと同日開催となり、現在も江南市社協にとって、大きな啓発活動の事業となっています。



介助犬PR事業開始

社会福祉法人日本介助犬協会総合訓練センターに協力を依頼し、児童を対象に介助犬PR犬及び職員を市内小学校に招き、身体障害者補助犬の紹介、デモンストレーション等を実施。平成24年より事業が開始され、現在は市内すべての小学校にて福祉教育事業の推進として実施しています。



平成25年→平成27年

2013年～2015年



江南市社会福祉協議会の変遷		世相
平成25年 2013	障害者相談支援センター事業開始 老人福祉センター自主事業「足腰弱らん教室」開始	富士山世界文化遺産登録決定 障害者総合支援法施行 人口減少過去最多
平成26年 2014	江南市民生委員児童委員協議会「地域福祉部会」が新規立ち上げ、事務局として支援 機材貸出事業用の備品(わたがし機・ポップコーン機)購入、貸出事業開始 江南市社協キャラクター「しゃきょう君とみくしさん」イラスト登場	御嶽山噴火 ソチ冬季オリンピック開催 消費税5%から8%
平成27年 2015	江南市社協法人設立35周年記念江南市社会福祉大会開催 生活困窮者自立相談支援事業開始 日常生活自立支援事業の全面受託 インタビュー形式の座談会(ボランティア×ボランティア)の事業実施、上巻作成 ボランティアセンターガイドブックの作成 ふれあい・いきいきサロンガイドブックの作成 ふれあい・いきいきサロンスタッフ研修会の実施	パリ同時多発テロ事件発生 生活困窮者自立支援法 施行 関東・東北豪雨 マイナンバー法施行



ボランティアって!?
ボランティアグループの気になるフレーズ
「私はボランティアとは、
『言われなくてもするが、
言われてもしないこと』
だと思っています」
【出典: Vol.16 やまびこ×江南市地域福祉研究会】



平成25年→平成27年

2013年～2015年

障害者相談支援センター事業開始

江南市の障がい者支援体制が強化されることに伴い、障がい者への総合相談を基本とした地域福祉サービスセンターの名称を「江南市社会福祉協議会障害者相談支援センター」に改め、障がい者の地域移行及び地域定着支援(一般相談支援事業所)の実施や障害福祉サービス等の適切なサービス利用(特定相談支援事業所)の事業を開始しました。

生活困窮者自立相談支援事業開始

生活困窮者自立支援制度の施行に伴い、平成27年から江南市より「自立相談支援事業」を受託し、生活困窮者への包括的かつ継続的な相談支援体制の整備及び生活困窮者支援を通じた地域づくりを支援しています。

機材貸出事業用の備品(わたがし機・ポップコーン機)購入

地域福祉の向上に寄与することを目的に、江南市社協の会費の財源を活用し、多くの団体等の地域福祉に関する事業を支援する目的で貸出機材の整備を行いました。現在、イベント用テント、わたがし機、ポップコーン機、ポッチャセット等を整備しており、多くの団体に活用されています。

地域福祉人材育成事業(ボランティア×ボランティア)の実施

平成27年から平成30年にかけて、江南市社協に登録されているボランティアグループ会員同士にそれぞれ「聞き手」「語り手」となってもらい、インタビュー形式の座談会を継続的に実施し、社協だよりに掲載するとともに、開催した座談会の記録(上巻・下巻)を作成し、ボランティアの内容ではなく、活動者の想いやボランティア観について着目した記録書として啓発しました。現在もボランティアをしたい方への後押しの一冊として活用しています。

日常生活自立支援事業の全面受託

自己判断能力が乏しい方への権利擁護事業である、「日常生活自立支援事業」の基幹事務が移行され、事業実施者である愛知県社会福祉協議会より事業受託し、利用者への支援及び基盤体制の強化を行いました。



平成28年→平成30年

2016年～2018年



江南市社会福祉協議会の変遷		世相
平成28年 2016	江南市地域福祉計画及び江南市地域福祉活動計画の一体的策定開始 ふくし江南ふれあいまつりと江南市民健康フェスティバルの同日開催 江南市社協災害ボランティアセンター運営手引書の作成 防災訓練(シェイクアウト)の開始 精神障がい者の地域の居場所づくりフォーラムの開催	SMAP解散 熊本地震 リオ五輪 障害者差別解消法施行
平成29年 2017	江南市生活支援体制整備事業の受託 老人福祉センターの入浴料有料化 福祉教育プログラム開発モデル事業として古知野東小学校指定開始 中央コミュニティ・センターの会場使用料有料化 生活支援通所事業(デイサービス)の廃止 地域福祉推進シンポジウムの開催 社協職員内部研修の実施	将棋・藤井四段デビュー29連勝達成 生活保護受給世帯が過去最多 沖ノ島世界遺産に登録 九州北部豪雨災害
平成30年 2018	カフェこ～なん事業の実施 こうなん福祉フェア事業への支援 市内全域で高齢者ふれあい食事を実施 江南市と江南市社協が「災害ボランティアセンターの開設及び運営等に関する協定」を締結 国会としての方針を検討するためのプロジェクト(江南市社協『ZERO-P』ゼロプロジェクトの立ち上げ) 地域福祉懇談会(こうなん井戸端会議)開催 ボランティア・マルシェの開催 インタビュー形式の座談会(ボランティア×ボランティア)の事業実施、下巻作成	不登校14万人過去最多 西日本豪雨災害 北海道胆振東部地震



平成28年→平成30年

2016年～2018年

精神障がい者の地域の居場所づくりフォーラムの開催

精神障がい者の地域の居場所づくり(フリースペース)として「ハートフレンズ」を毎週金曜日に開催する中で、400回を迎えたことを契機に、「精神障がい者の地域の居場所づくりフォーラム」として、地域福祉推進セミナーを開催しました。



地域福祉推進シンポジウムの開催

地域福祉に関する啓発と地域福祉の推進に向けた機運醸成のため、地域福祉推進シンポジウムを開催。2部制で後半は地域で活動している福祉団体やサロン、地域包括支援センターから活動事例を紹介してもらい、住民に対して福祉を伝える機会となっています。

江南市生活支援体制整備事業(生活支援コーディネーター)の受託

介護保険制度の改正に伴い、江南市から「江南市生活支援体制整備事業」を受託し、日常生活圏域に生活支援コーディネーターを配置し、関係者と協働し地域づくりを推進しています。

市内全域で高齢者ふれあい食事会実施

ひとり暮らし高齢者等の見守りが必要な方を対象とし、食事会を通じて参加者同士や民生委員とのつながりを図り、閉じこもり防止や生きがいを促すことを目的に実施しています。平成30年から、民生委員の協力の基、食事会を開催することができ、多くの方に参加いただいている事業です。



カフェこ～なん事業の実施

地域のよもやま話を身近な拠点(喫茶店等)で対話することで、地域のつながりを構築することを目的とし、市民活動の中間支援組織であるコミュネット江南と共催実施をした。開催を通じて地域の情報把握やボランティアの啓発活動にもつながった事業です。



こうなん福祉フェア事業への支援

市内の福祉サービス事業者の実行委員会で組織する「こうなん福祉フェア実行委員会」が開催した「こうなん福祉フェア」に対して、デイサービスや就労支援等の福祉サービスの啓発を通じて社会参加を促すことを目的に支援を行いました。



社協職員内部研修の実施、江南市社協ZERO-Pプロジェクト

江南市社協として、部署内連携や職員のスキルアップとして、外部講師を招き、事例検討等の研修や先進地社協の取り組みを学びました。同時に江南市社協の方針を検討するためのプロジェクトとして、ZERO-Pプロジェクトを打ち出し、スローガンや理念及び行動規範をまとめました。現在でも行動規範を毎日確認し、職員の意識を高めるとともに、通常業務の資質向上につながっています。

私たちは4つのZERO(ゼロ)を目指します。

まちづくりの拠点・すべての人を対象に・無限の可能性を求めるとともに、困りごと、対応不能ゼロ

— 江南市社会福祉協議会 行動規範 —

【ZERO】

・全ての差別、偏見、ハラスメントを「ZERO」に。
・私たちは法令を遵守し、ZEROの理念に基づく行動を徹底していきます。

【広げる】

・私たちは地域の資源を有効活用し、地域力あふれるネットワークを創造していきます。
・私たちは自ら積極的に地域に出向き、気軽に話せる関係性を築く中で、潜在的なニーズの把握をしていきます。

【高める】

・私たちは業務の評価、分析、改善、実行を繰り返しながら、自らの業務理解を深めていきます。
・私たちは、今まで培った実績に加え、常に新しい情報や知識の獲得を目指していきます。
・私たちは、健康管理を意識し、心身ともに健康な状態で業務に取り組めるよう努めていきます。

【尊重する】

・私たちは、人生の主人公である個人を尊重し、寛容の態度で多様な存在やその人らしさを大切にしています。
・私たちは、公正・中立な立場を守り、誠実かつ丁寧な対応を心がけていきます。

【つなげる】

・私たちは、チーム支援ができる社協ならではの強みを発揮できるよう努めます。
・私たちは協力を共有し、支えあい、歩み寄りの精神を大切にしています。

【寄り添う】

・私たちは、誰しもが持っている良い面に着目し、その人の強みを引き出していけるよう努めます。
・私たちは、個人では気付けない課題や問題をひもどき、相手の目線に立って適切な支援が行えるよう、環境づくりに努めます。

【代弁する】

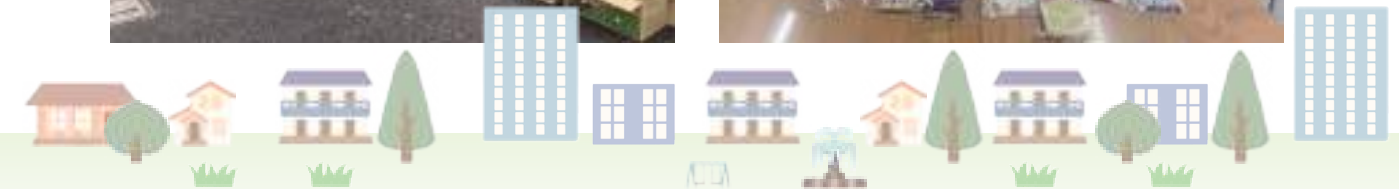
・私たちは、一人ひとりが抱える複雑な問題に向き合い、責任をもって適切な支援先、連携先へとつなげていきます。
・私たちは同様の問題を抱える方の一助となるよう、潜在的なニーズに目を向け、地域社会に必要な事を洗い出し、社会に向けての代弁、発信を続けていきます。

令和元年→令和2年

2019年～2020年



	江南市社会福祉協議会の変遷	世相
令和元年 2019	地域交流スペースみらい運営開始 (ボランティア・マルシェ、部屋貸出対応等) 台風19号被災地支援ボランティアバスによる災害ボランティアセンターへ職員派遣 江南市災害ボランティアコーディネーター養成講座の企画運営支援 読み書き(代読・代筆)支援基礎講習会の開催 みんなで考え、みんなで作る地域の支え合い事例集の作成(生活支援コーディネーター)	児童虐待、DV被害過去最多 新元号「令和」 消費税8%から10%
令和2年 2020	新型コロナウイルス感染症の影響を受けた休業や失業等による緊急小口資金、総合支援資金(特例貸付)を実施 社協つながりプロジェクト実施 こども食堂事業助成金交付要綱の施行 生活支援における移送サービス車両活用事業実施要綱の施行	新型コロナウイルス感染症流行(緊急事態宣言) 政府布マスク配布 国民一律10万円給付 東京オリンピック、パラリンピック開催延期



令和元年→令和2年

2019年～2020年

台風19号被災地支援ボランティアバスによる 災害ボランティアセンターへ職員派遣

西尾張ブロック災害協定に基づき、西尾張ブロック管内の災害や防災等に携わる方々を中心に、被災地に出向きボランティア活動を行いました。被災地の状況把握及び市町村社協の災害対策等に資することを目的に実施しました。



地域交流スペースみらい運営開始

地域住民の交流の場及び地域福祉の活動拠点として、地域交流スペースみらいの会場貸出、ボランティアや地域活動の情報周知、ワークショップ及び講座等の管理運営を実施しています。



ボランティア・マルシェの実施

新たなボランティアの担い手づくり及びボランティアセンターの機能強化の充実を目的に、毎回異なる6日間のボランティアの連続講座「ボランティア・マルシェ」を開催しています。過去には、声をキレイに美声講座や災害時に役立つクッキング講座等、登録ボランティアグループと企画づくりを行い、ボランティア活動の理解へとつなげています。



社協つながりプロジェクトの実施

新型コロナウイルス禍の中、地域のつながりの希薄化を防ぐために「社協つながりプロジェクト」と称し、マスクや野菜などの寄付をサロン団体等に協力を呼びかけ、寄付いただいたものを生活に困窮する方、マスク不足にお困りの方、サロン活動を再開する団体などへお届けする支援等、「自宅で行えること、自分ができること」で、自粛化の中でも、声を掛け合い、地域の新たなつながりづくりの支援を行っています。



江南市社会福祉協議会の主な事業について

法人運営事業

法人運営全般

- ①理事会・評議員会・監事会等の役員会の運営
- ②会計経理処理(各種支払、予算執行等)
- ③社協会員の募集に関する業務
- ④給与兼人事に関する業務
- ⑤共同募金の募集に関する業務

広報公聴活動の推進

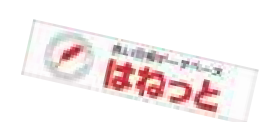
(1)「社協だより」の発行

社協だよりは昭和55年から発行しており、令和2年末現在で193号となりました。内容は江南市社協の事業全般、各種講座の案内、社協職員による取材記事等、身近な地域の福祉やボランティアの情報を地域の皆様にお届けしています。



(2)ホームページによる情報提供の実施

ホームページを通じて情報を定期的に発信し、タイムリーな情報を地域の皆様にお届けしています。近年ではSNSを活用しながら必要な情報を発信しています。



表彰関連、その他支援事業について

江南市子ども会大会における優良子ども会顕彰の実施

児童福祉思想の普及と高揚を図ることを目的に、活発で優れた活動により他の模範となる子ども会を表彰し功績を称えています。

敬老会の開催

昭和55年より高齢者に対する感謝と敬愛を養うため、敬老会を江南市と共催で開催し、現在は、長年にわたり社会の発展に寄与された75歳の方に記念品を贈り長寿をお祝いしています。昭和59年までは市内の7小学校下で行っていましたが、昭和60年からは統合して市域を1本化し実施しています。

江南市社会福祉大会の実施

昭和57年に第1回を開催して以来、回を重ね令和2年度江南市社協は法人設立40周年の節目にあたります。この社会福祉大会では、長年にわたり江南市の福祉の発展に貢献された方々及び団体を顕彰し、その功績を讃えるとともに新たな決意をもって、豊かな地域社会づくりに向けて努力しようとするものです。

児童公園遊具設置・補修支援事業の実施

昭和55年より、子ども達が屋外で安心して遊ぶことのできる児童公園の整備において、申請のあった区に対し、遊具の新規設置や補修に必要な費用を、赤い羽根共同募金配分金より助成しています。

機材貸出事業用の備品 (わたがし機・ポップコーン機)購入

地域福祉の向上に寄与するため、多くの団体等の地域福祉に関する事業を支援する目的でポップコーン機、わたがし機等の備品貸出を行っています。

満100歳誕生の祝い

「100年」という長い年月を地域社会のために貢献してこられた方のご苦労に対するお礼と長寿をお祝いしています。昭和55年に最初のお祝いをして以来継続し、江南市長と江南市社協会長からお祝いメッセージと記念品をお届けしています。

結婚50年の祝い

結婚以来長い間、お互いに助け合いながら夫婦の愛情を育み、人生の模範となってこられたご夫婦に敬意を表しお祝いしています。

母子及び父子家庭の小学校入学、中学校進学及び中学校卒業生徒の激励会の実施

母子及び父子家庭の児童・生徒に対し、小学校入学児童、中学校進学及び中学校卒業生徒への激励会を行っています。

老人クラブ活動への支援

市内の地域老人クラブで構成された江南市老人クラブ連合会は、各種スポーツ大会、文化行事及び趣味を生かした活動が展開されています。江南市社協は、これらの活動を積極的に支援しています。



地域福祉活動事業

ボランティアセンターの推進

1 ボランティアセンター運営委員会の開催

ボランティアセンター運営委員会による課題検討や事業報告、情報共有、意見交換等ボランティアに関わる事項についての協議を年6回開催しています。

【30年→40年にかけての歩み】

- ・「ふくし江南ふれあいまつり」を実施、ボランティア啓発に向けた講座の実施
- ・ボランティア理解啓発のボランティアセンターガイドブックの作成
- ・身体障害者手帳交付時におけるボランティアグループの資料配布を実施
- ・ボランティアルームの常設化、地域交流スペースの名称決めや利用方法検討
- ・江南市立福祉センターにおけるユニバーサル自動販売機の設置についての協議
- ・その他、ボランティアグループからの課題を基に地域福祉活動事業に反映等



ボランティアセンター運営委員会構成団体

1	人形劇グループわらしべ	13	eye・愛サークル
2	点訳ボランティアたまづさ会	14	ボランティアグループあすなろ
3	手話サークルあけぼの会	15	ボランティア相談員
4	江南レクリエーションキャンプ カウンセラー協会	16	西尾張ブロックボランティア フェスティバル代表
5	江南市地域福祉研究会	17	社会福祉法人サン・ビジョン
6	手話サークルこけし	18	しらゆり・ワーク
7	社協花しおりの会	19	くるみの里
8	声のボランティアやまびこ	20	たけのこ作業所
9	江南青年学級連絡会	21	西尾張明るい社会づくりの会
10	要約筆記サークル藤	22	江南市身体障害者福祉会
11	運転ボランティア	※令和2年度 現在	
12	高齢者疑似体験ボランティアさくら会		

2 登録ボランティアグループへの活動支援

福祉を主たる目的とした登録ボランティアグループ(14団体)が江南市内で活躍されています。

●人形劇グループわらしべ

人形劇と影絵と手遊びを通して、テレビではない、ゲームではない“生の舞台”を子どもたちに届け、楽しさと感動を味わって頂けるよう努めています。特別支援学校、福祉施設、子ども会、子育て支援グループ等に公演を行っています。



【特記すべき事項】

愛知県人形劇連盟加入、世界人形劇フェスタに参加、江南市保育園保護者会連合会の依頼で毎年市内すべての保育園で公演キャラバンを継続しています。



●点訳ボランティアたまづさ会

市内在住の視覚障がい者に、広報こうなん、社協だより、新聞記事等を点訳して届けています。また、リクエストに応じて一般図書も点訳し、図書館に収蔵しています。点訳ボランティア養成の講習会も毎年開催しています。

【特記すべき事項】

点訳活動以外にも「点字の理解啓発、視覚障がい者の理解」等を行う福祉実践教室の講師としても活動しています。

●手話サークルあけぼの会

聴覚障がい者、ろう者が手話を教えています。また会員同士の交流と手話理解を深めるためのレクリエーション等、一緒に活動を進めています。手話人口の底辺拡大を目指し、主に小中学校が行う手話教室にも積極的に参加し普及に努めています。

【特記すべき事項】

手話がまだ社会に広がっていない頃から手話講習会及び自主講習会を実施し、手話の普及啓発、手話通訳者の養成にも力を入れています。



●江南市地域福祉研究会

福祉実践をされている方が中心となり、学習会を開催しています。福祉教育やボランティア活動等の実践報告とそれに基づく話し合いを行っています。福祉に関心のある方なら誰でも参加できる学習の場で、広く交流の場にもなっています。

【特記すべき事項】

地域における学習拠点として位置付けており、地域住民が福祉やボランティアの理念等に触れることができる場を定期的に開催しています。



●声のボランティアやまびこ

月1回発行される「広報こうなん」と「社協だより」をCD等に録音し、視覚障がい者に届ける作業を主に行っています。また、CD等を作成するための勉強会、視覚障がい者との交流会も行っています。

【特記すべき事項】

江南市福祉センターの録音室の整備に尽力し以後、日々研修を重ねながら視覚障がい者へ音訳CD等を届けています。



●手話サークルこけし

聴覚障がい者、ろう者を講師にして日々勉強しています。現在は主に小中学校が行う手話教室に行き、手話を教えています。また活動の一環で、使用済み切手の回収を行っており、収集して還元したお金で市内福祉施設に寄付を行っています。

【特記すべき事項】

夏休み親子手話教室等、手話を通じた交流を大切にしており、手話の普及啓発活動を実施しています。



●社協花しおりの会(旧 社協国際婦人の会)

社協国際婦人の会から名称を変更し、現在は会員の得意なことを活かした活動を行っています。主に、押し花手帳講座や健康体操教室、福祉施設等への出前講座等を行い、地域の交流づくりを行っています。

【特記すべき事項】

社協国際婦人の会では、婦人の社会参加と文化の向上を目的に活動していました。名称を変更しても、これまで実施していた、牛乳パック回収活動を継続し、市内福祉施設への協力を継続的に実施しています。



●江南レクリエーションキャンプカウンセラー協会

小学校4～6年生を対象とした「子どもわんぱくキャンプ」を中心に児童・青少年育成に努めています。また子ども会等からの依頼により、キャンプ、クリスマス会、歓送迎会でのレクリエーション指導を行っています。

【特記すべき事項】

レクリエーションの指導、ジュニアリーダー養成等を実施。毎年行う「子どもわんぱくキャンプ」では自然の豊かさやキャンプ、レクリエーションの楽しさを伝えています。



●江南青年学級連絡会

青年学級は、1人で外出が難しい等の理由から余暇を充実させられない障がいを持った方たちの「休日を楽しみたい」という願いを受け、楽しんで過ごすことができるように活動しています。

【特記すべき事項】

以前は、江南日曜学級実行委員会として、活動を行い、現在も名称を変えながら、障がい者の余暇活動の機会を定期的実施しています。



●要約筆記サークル藤

難聴・中途失聴者の声を受け会を発足させ、相手の話を書いて伝える要約筆記を行っています。講演会やイベント等の要約筆記による情報保障等を行っています。

【特記すべき事項】

「ひとりぼっちの難聴者をなくそう」と称して、毎月交流会を開催しており、難聴・中途失聴者の居場所づくりを実施しています。

●運転ボランティア

単独で移動困難な方への外出支援として、車いすでの乗降が可能なりフト付きワゴン車を使用し、移送サービスを行っています。移送サービスを行うための運転手としてボランティアの方々や運転し、利用者への外出支援を行っています。

【特記すべき事項】

単独移動が困難な方の移動手段として年間100件以上の活動を行っています。また年に1回会員の情報交換会を実施しています。



●高齢者疑似体験ボランティアさくら会

主に小中学校での福祉実践教室で高齢者疑似体験教室を行っています。ゴーグルや重り等を体に装着して階段の上り下りや、財布からのお金の出し入れ等、高齢者の生活理解の体験をしています。また企業研修やイベント等で実施し、高齢者にやさしい社会づくりを目指しています。

【特記すべき事項】

毎年1回会員の勉強会を行い、体験活動のふりかえりを実施したり、体験で使用する備品を作成したり、よりよい学びを提供するために研鑽しています。

●eye・愛サークル

主に小中学校での福祉実践教室で視覚障がい者ガイド教室を行っています。アイマスクをつけてガイド体験をしたり、視覚障がい者から話を聞いたり、子どもたちに福祉に目を向けてもらい、困っている人がいれば手を差し伸べるように育てほしいと願い活動しています。

【特記すべき事項】

福祉実践教室で「視覚障がい者ガイド教室」を行うだけでなく、視覚障がい者講師の確保に努め、授業の内容の打ち合わせ等を行いながら進めています。



●ボランティアグループあすなろ

障がいのある方々が自立を目指して訓練を行う「あすなろOB会」の支援と、脳に障がいがある方、言語障がいの方へのレクリエーション支援を行う「ブナの会」の活動の支援をしています。在宅生活を支援するためにリハビリ訓練やレクリエーション等を行っています。

【特記すべき事項】

ボランティアグループとして、障がい当事者の意見をくみ取り、公共施設のスロープに手すり設置の要望や車いすの設置等、当事者の代弁者となり活動しています。

これまでご協力いただいた登録ボランティアグループ

朗読ボランティアあめんぼ(※)

(※現在、図書館の登録ボランティアグループ)

録音図書作りと読み聞かせの活動をしています。録音図書は、自宅で作成し、図書館に保管しており、視覚障がい者の方や読書困難な方に、ご利用いただいています。



NHK学園サークル(～平成28年)

NHK学園の社会福祉コースを卒業した方がサークルを発足し、定例会、研修会、交流会、福祉入門講座の企画運営の活動をしていました。福祉入門講座は多くの住民に福祉を身近なテーマとして届け、地域福祉の推進に大きく寄与しました。



コスモスの会(～平成27年)

高齢者施設を訪問し、食事、足浴、手浴、散歩等の介助、茶道、生け花の指導、運動会、納涼祭等のお手伝いをしていました。介護保険制度の施行前から市内高齢者施設のボランティアに尽力し、現在もグループとしては解散しましたが、会員個人で活動が継続されています。



ボランティアグループすみれ会(～平成26年)

介護保険制度が整う前から、ボランティア会員が既製品の介護用品では対応できないものを、利用者個々の要望に応じて、利用者にあった介護用品を製作しお届けしていました。現在も依頼を受けることがあり、会員個人で活動されています。



3 ボランティア相談の実施

ボランティア活動を始めたい人、ボランティアを必要としている人のボランティア相談を実施。その他にも相談のニーズから、男性ボランティア講座や外部に出向く出張ボランティア相談、新人のボランティア会員を対象にしたボランティアサロン等の企画運営を実施しました。

令和2年より名称や体制の見直しを行い、今後は「社協ボランティアサポーター」として、ボランティア活動の啓発及びボランティアセンター事業に協力してもらいながらボランティアの推進につなげていきます。



4 「ふくし江南ふれあいまつり」の開催

平成20年度より、江南市社協ボランティアセンター登録ボランティアグループによる実行委員会を設け、一般市民への福祉ボランティアの活動PRや会員募集に努めるとともに、ボランティアグループ間のつながりを築き、活動の連携を図ることを目的として実施しています。



5 子どもわんぱくキャンプの開催

新しい友達づくりと共同生活の体験を目指して、夏休みに1泊2日のキャンプを行っています。昭和60年に第1回キャンプを実施して以来、継続して実施しており、わんぱくキャンプ参加者から、ジュニアリーダー、スタッフと人材も育っています。

6 こどもフェスティバルへの参加

江南市とこどもフェスティバル運営協議会が主催するこどもフェスティバルに、手話サークルあけぼの会、こけし、要約筆記サークル藤及びくるみの里の協力により手話体験と要約筆記体験、車いす体験のブースを開設し参加しています。



7 移送サービスの実施

単独移動困難者を対象に、車いす対応福祉車両にて運転ボランティアの協力を得て実施しています。



その他の支援事業について

障がい者施設地域交流事業 助成の実施

共同募金の配分金を財源に江南市内の障がい者福祉施設が行う地域住民との交流を目的とした事業に助成を行い、地域における障がい者理解及び福祉施設における地域福祉推進を図ることを目的に実施しています

公募制障がい児・者生活支援事業 助成の実施

共同募金の配分金を財源に、障がい児・者の地域生活支援に対し、必要な事業の支援を行っています。



福祉教育事業の推進

1 江南市社会福祉協力校事業の実施

江南市社協では、昭和56年度布袋小学校が最初に愛知県社協の委嘱を受けて以来、毎年委嘱校を増やしてきました。現在は愛知県社協の委嘱が終わる翌年から江南市社協の委嘱校として事業を継続し、江南市内小学校10校、中学校5校、江南高等学校、尾北高等学校、古知野高等学校、愛知江南短期大学を指定し、社会福祉体験活動を中心に取り組んでいます。

福祉実践教室の開催

学校における福祉体験活動メニューとして、学校からの依頼を受け、福祉実践教室を開催しています。科目は車いす、手話、要約筆記、点字、視覚障がい者ガイド、盲ろう者通訳ガイド、高齢者疑似体験、知的障がい者理解軽スポーツを実施しています。



福祉教育プログラム開発モデル事業の実施

平成17～18年度に愛知県社協より2年間指定を受けモデル事業を実施し、福祉教育プログラム開発を行いました。19年度より江南市社協による継続事業とし、門弟山小学校を研究モデル校に指定し、総合的な学習の時間における福祉学習プログラムサポート事業を現在も取り組んでいます。



子ども福祉塾の実施

平成10年度より、地域を基盤とした福祉教育実践の一環として、小学校4～6年生を対象に車いす体験ツアーや福祉施設での当事者交流等の地域における福祉教育プログラムを年7回実施しています。

夏休み福祉体験学習事業 (短期ユースアクション事業)の実施

毎年中学生・高校生を対象に、夏休み期間中に市内の福祉施設やボランティア活動などの福祉体験学習を実施しています。この体験を通じて福祉に関心を持つ生徒がおり、例年県内の平均を上回る参加者があります。

小地域福祉活動の推進

1 ふれあい・いきいきサロンの実施

サロンとは、歩いて通える場所を活動拠点として、その地域の住民の協力者と参加者(高齢者・障がい者等)が協働で企画、運営を行いながら、活動していく地域の居場所のことです。活動を通じて、家に閉じこもりがちの方、孤独を感じている方、悩みを抱えている方々が、地域の中でつながりを持ち、生きがいに結びつけることを目的としています。



サロン名	開催場所	開催日	令和元年度 実績
ほのほのサロン (平成15年～)	老人福祉センター	第2・4 金曜日	延べ634名/19回
ひまわりサロン (平成16年～)	草井地区学習等共用施設	第3 水曜日	延べ264名/11回
3R宮田サロン (平成18年～)	宮田地区学習等共用施設	第3 木曜日	延べ220名/11回
さわやかサロン (平成20年～)	古西公民館	第3 水曜日	延べ144名/10回
菜の花サロン (平成15年～)	布袋ふれあい会館	第4 木曜日	延べ360名/10回
ジョイフルサロン (平成20年～)	ジョイフル江南	第4 水曜日	延べ208名/10回
ふれあいサロンなごやか (平成23年～)	山王集会所	第1 水曜日	延べ330名/11回
生き・いき・サロン前野 (平成24年～)	前野公民館	第2 金曜日	延べ403名/11回
上奈良気ままサロン (平成22年～)	上奈良公民館	第2 火曜日	延べ450名/11回
ふれあいサロン藤ヶ丘 (平成25年～)	江南団地集会所	第4 水曜日	延べ633名/11回
ふじの郷サロン (平成26年～)	ケアハウスふじの郷	第4 火曜日	延べ313名/11回
新開・ふれあいサロン (平成26年～)	新開公民館(村久野区)	第2 金曜日	延べ237名/12回
サロンいまいちば (平成26年～)	今市場公会堂 今市場東倉庫	第2 木曜日 第3 木曜日	延べ110名/11回
サロンふじの会 (平成26年～)	宮田地区学習等共用施設	第2・4 火曜日	延べ721名/17回
サロン「あじさいの会」 (平成26年～)	般若公民館	第4 水曜日	延べ331名/12回
小脇生きいきクラブ (平成26年～)	小脇会館	毎週火曜日 第2・4 土曜日	延べ640名/76回
力長サロン (平成27年～)	力長公会堂	第2・4 木曜日	延べ463名/20回



サロン名	開催場所	開催日	令和元年度 実績
北山サロン (平成27年～)	北山公民館	第1～4月曜日	延べ655名/48回
なか般若サロン (平成27年～)	中般若会館(学供)	第2水曜日	延べ165名/12回
サロン・前飛保 (平成28年～)	前飛保会館	第2金曜日	延べ406名/11回
安良健康サロン (平成29年～)	安良会館	毎週金曜日	延べ1,344名/45回
そもと貯筋の会 (平成29年～)	曾本会館	毎週金曜日	延べ574名/44回
木曜サロン (平成30年～)	宮後上公会堂(宮後上区)	第1・3木曜日	延べ380名/29回
南山サロン (平成30年～)	ジョイフル布袋	第2・4火曜日	延べ589名/24回
観音寺サロン (平成30年～)	観音寺(小折町)	第1木曜日	延べ671名/11回
ゆう愛ステーション はなみずき(平成30年～)	ゆう愛ステーション はなみずき(江南団地商 店街)	水・日・祝を除く毎日	延べ7,132名/213回
サロン野白 (令和元年～)	野白区公会堂	毎週月曜日 毎週火・金曜日	延べ1,278名/130回
草の井サロン (令和元年～)	草井会館	第2・4火曜日	延べ870名/23回
布袋さくらサロン (令和元年～)	アートスペースベルグ	毎週月曜日	延べ1,039名/54回
マツオカピナサロン (令和元年～)	ショッピングセンター ピナ店	毎月第1水曜日	延べ90名/9回
宮後第1これから会 健康サロン(令和2年～)	砂場区公会堂	毎週火曜日	—
ハートフレンズ (平成20年～)	老人福祉センター	毎週金曜日	延べ1,026名/51回
Honwaka(ほんわか) (平成26年～)	老人福祉センター	第1水曜日	延べ124名/11回
多文化ワイワイプラザ (平成30年～)	ふくらの家「はなれ」	第2月曜日	延べ194名/13回



令和2年4月1日 現在

2 ふれあい・いきいきサロンに関する支援

ふれあい・いきいきサロンスタッフを対象に各サロンの情報交換や交流会を目的にした「サロンスタッフ交流会」や地域での支え合いや運営の課題等に対してグループワーク等を行う「サロンスタッフ研修会」を毎年開催し、サロン運営が円滑に運営できるように開催しています。その他にも活動の広報周知、ボランティアの紹介や貸出備品の提供、サロン保険の手続き等、相談に応じて支援しています。

3 心に病のある方の居場所(フリースペース)の支援

小地域において、心に病のある方が気軽に出かけて仲間づくりを行い、活動等をするのでいきいきと暮らせるための場づくりを行っています。江南市内には「ハートフレンズ」と「Honwaka(ほんわか)」が行っています。

4 精神障がい者の地域の居場所づくりフォーラムの実施

精神障がい者の地域での居場所づくりの意義を改めて考えるとともに、精神障がい者が抱える悩みと精神障がい者と関わる方からの悩みを語り合いながら、お互いが生きやすく暮らしていくために大切なこと等を学び合うフォーラムを実施しています。

5 外国籍の方の居場所づくりの実施

地域において、外国籍の方々による文化紹介を通じて交流し、お互いに理解を深めることを目的に運営する「ふくらの家」の活動「多文化わいわいプラザ」を支援しています。

生活支援体制整備事業の推進

生活支援体制整備事業の推進

一人暮らしや夫婦のみの高齢者世帯、そして認知症の方が増えているなかで、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくためには、医療や介護のサービス提供のみならず、地域の中に居場所があることや地域で助け合い、支えあう仕組みづくりを実現するために、市より委託を受け、平成29年4月から生活支援体制整備事業における「生活支援コーディネーター」を配置しています。地域の「あったらいいな」の実現、「ちょっと困った」の解消を目指した取組みを進めています。



障害者相談支援事業

1 障害者相談支援センター事業について

障害者相談支援センターでは、江南市が設置する江南市基幹相談支援センター事業の障害者相談支援事業を一部受託し、障がいのある方やその家族が、生活のなかで直面する様々な課題に対して、それを解決するためにはどのような方法があるのか、相談を受けながら一緒に考え、改善のための方法が見つけれられるように支援しています。

【支援方法(令和元年度)】(単位:件)

訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	計
563	750	43	1,646	9	54	1,083	4,148

【支援内容(令和元年度)】(単位:件)

福祉サービス利用支援	1,377
健康・医療に関する支援	1,154
不安解消情緒安定に関する支援	503
家計・経済に関する支援	1,156
生活技術に関する支援	742
就労に関する支援	227
社会参加余暇活動に関する支援	73
権利擁護に関する支援	1,425
家族関係、人間関係に関する支援	730
計	7,414

2 障害福祉サービス等の利用計画の作成(計画相談支援)

障害者総合支援法および児童福祉法に基づき、障がい児・者が給付サービスを利用する際のサービス等利用計画の作成を、障害福祉サービス等の利用を希望する障がい者の総合的な援助方針や解決すべき課題を踏まえ、最も適切なサービスの組み合わせ等について検討し作成(江南市社協では、障がい者18歳以上のみ計画作成)しています。(令和元年度作成実績:56件)

3 地域生活への移行に向けた支援(地域移行支援・地域定着支援)

地域移行支援は、入所施設や精神科病院等からの退所・退院にあたって支援を要する者に対し、入所施設や精神科病院等における地域移行の取組と連携しつつ、地域移行に向けた支援を行います。地域定着支援は、入所施設や精神科病院から退所・退院した者、家族との同居から一人暮らしに移行した者、地域生活が不安定な者等に対し、地域生活を継続していくための支援を行っています。

4 無料法律相談の実施

平成21年度より、高齢者と障がい者を対象とし、主に権利擁護を中心とした、弁護士による無料法律相談を実施しています。

権利擁護推進事業

1 江南市成年後見センターの運営の実施

高齢者や障がい者等の権利擁護として、低所得者層の高齢者や障がい者で身寄りがなく、自己判断能力が不十分になった方への権利擁護のための支援、成年後見制度や日常生活自立支援事業等の利用、市長申立の事務支援等を行っています。

2 日常生活自立支援事業の実施

日常生活に不安を抱え、自己判断能力が乏しい方への権利擁護として、金銭・書類管理を行う日常生活自立支援事業を愛知県社協から事業受託し、江南市内の利用者への支援を行っています。(令和元年度実績:利用者40名、利用件数:延べ46件)

生活困窮者自立支援事業

1 自立相談支援事業の実施

経済的困窮(生活保護を除く)の方や社会的孤立に陥っている方に対し、支援員が相談を受けて、どのような支援が必要かを相談者とともに考え、自立に向けた支援を行っています。

【支援内容(令和元年度)】(単位:件)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談受付	6	5	11	7	5	3	9	9	9	6	2	20	92
就労者数	3	0	2	3	2	3	1	4	2	0	0	0	20

2 フードバンク活用支援事業の実施

NPO法人セカンドハーベスト名古屋と協定を結び、生活困窮等生活上の困難に直面している方に対して、食糧支援を通じ、生活の立て直しを図ることを目的に実施しています。(令和元年度実績:23件)

3 生活福祉資金貸付事業の実施

低所得者や障がい者世帯、高齢者世帯への各種資金の貸付と民生委員児童委員の協力による生活指導の実施を行っています。(令和元年度実績:貸付件数9件、相談件数96件)

4 一時援護金貸付事業の実施

一時的に生活費に困っている方に1万円(最高2万円)の貸付を行い、面接調査や生活指導を実施し、貸付対象者の生活状況の把握や自立支援を行っています。(令和元年度実績:貸付件数:30件、相談件数:60件)

介護保険・障害福祉サービス事業の実施

1 介護保険 訪問介護(ホームヘルパー)事業の実施

介護保険の要介護の認定を受けられ、要支援及び要介護状態の方に対し、江南市社協指定訪問介護事業所との契約を行った利用者にホームヘルパーが訪問し、生活支援や身体介護のサービス提供を行っています。

2 障害福祉サービス事業 訪問介護(ホームヘルパー派遣)事業の実施

身体・知的障がい児、者及び精神障がい者の方が江南市社協の訪問介護サービスを利用されています。

3 介護保険 居宅介護支援事業の実施

介護保険の要介護認定を受けられ、江南市社協居宅介護支援事業所との契約を行った利用者に対し、ケアマネジメント業務やケアプランの作成を行い、利用者が日常生活を営めるよう支援を行っています。

4 市受託事業の実施

江南市からの受託業務として訪問調査事業(介護保険認定審査会の第一次判定資料作成業務)を行っています。

福祉センター管理事業 — 指定管理者制度

1 老人福祉センター(1階)の利用状況

江南市内に居住する60歳以上の方が利用でき、健康の増進、生きがいの場をつくることを目的に会館管理を行っています。

【令和元年度実績】

区分	個人: 15,773名	1日平均 84.5名	開館日数 316日
	団体: 10,919名		
	合計: 26,692名		

2 中央コミュニティ・センター(2階)の利用状況

各種コミュニティ組織による活動を活性化し、地域住民が快適で健全な日常生活が過ごせるような生活環境の整備、向上に資することを目的に会館管理を行っています。

【令和元年度実績】(単位:名)

会場	第1和室	第2和室	会議室1	会議室2	実習室	計
計	6,416	7,406	10,602	12,540	15,353	52,317

3 老人福祉センター健康相談の実施

老人福祉センターに看護師を配置し、希望する利用者の血圧測定等を実施するとともに健康に関する相談を実施しています。(令和元年度実績:3,829名)

共同募金・歳末たすけあい運動事業の推進

1 高齢者ふれあい食事会の開催

民生委員児童委員のご協力をいただき、ひとり暮らし高齢者を主な参加対象とした食事会を実施しています。余興では保育園児との交流を行っています。



2 歳末たすけあい募金配分金事業の実施

市民からの善意によって集められた歳末たすけあい募金に対し、本会は受配団体として社会的支援が必要な方への生活支援、地域交流事業及びボランティアやふれあい・いきいきサロン活動を支援しています。

財政状況

1. 一般会計収支決算状況

単位:円

年度	収入決算額	支出決算額	繰越額
昭和54	16,648,318	3,489,804	13,158,514
59	35,688,943	31,419,408	4,269,535
平成元年	44,700,178	40,857,875	3,842,303
6	132,271,034	123,380,372	8,890,662
11	195,481,323	186,960,451	8,520,872
16	257,444,864	239,337,188	18,107,676
21	222,909,459	200,489,047	22,420,412
26	223,232,351	203,014,674	20,217,677
令和元年	244,038,589	220,742,628	23,295,961

2. 共同募金委員会会計収支決算状況

単位:円

年度	収入決算額	支出決算額	繰越額
昭和54	—	—	—
59	21,416,332	21,265,984	150,348
平成元年	14,120,263	13,616,388	503,875
6	18,376,802	17,849,571	527,231
11	20,189,207	20,044,454	144,753
16	20,986,455	20,986,455	0
21	18,490,421	18,490,421	0
26	17,614,174	17,614,174	0
令和元年	17,037,988	17,037,988	0



年度別会費の収入状況

会員数:人・金額:円

年度	一般会費	法人会費	特別会費	施設会費	会費総額
	会費額	会費額	会費額	会費額	
昭和54	—	—	—	—	—
59	2,512,342	1,460,200	1,041,200	—	5,013,742
平成元年	2,885,800	1,490,000	1,320,300	—	5,696,100
6	3,304,850	1,647,000	1,297,000	48,000	6,296,850
11	3,536,000	2,159,000	1,407,500	56,000	7,158,500
16	3,718,300	1,836,000	938,000	20,000	6,512,300
21	3,941,400	1,295,000	802,500	24,000	6,062,900
26	3,733,500	1,098,500	859,400	28,000	5,719,400
令和元年	3,576,800	862,200	597,000	22,000	5,058,100

共同募金配分金実績

1. 一般募金の状況

(1) 募金実績

単位:円

年度	一般募金 ^(※1)		歳末たすけあい募金 ^(※2)		計		達成率 %
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	
昭和54	5,155,634	5,498,733	600,000	1,137,177	5,755,634	6,635,910	115.29
59	9,345,184	9,747,650	1,500,000	2,290,870	10,845,184	12,038,520	111.00
平成元年	10,600,000	10,695,453	1,900,000	2,238,096	12,500,000	12,933,549	103.47
6	13,300,000	13,676,283	3,200,000	3,277,863	16,500,000	16,954,146	102.75
11	15,239,000	15,158,754	3,810,000	3,864,779	19,049,000	19,023,533	99.87
16	15,000,000	14,971,324	4,000,000	3,764,943	19,000,000	18,736,267	98.61
21	15,000,000	13,886,511	4,000,000	3,684,327	19,000,000	17,570,838	92.48
26	15,000,000	13,166,913	4,000,000	3,564,478	19,000,000	16,731,391	88.06
令和元年	15,000,000	12,644,440	4,000,000	3,477,426	19,000,000	16,121,866	84.85

※1 一般募金:広域社会福祉事業・更生保護事業を行う民間施設の整備費として、また団体の事業費及び社会福祉事業を行う団体(社会福祉協議会)等へ配分する募金

※2 歳末たすけあい募金:歳末助け合い事業を行う団体(社会福祉協議会)等へ配分する募金

(2)募金内訳

単位:円

年度	個別募金	街頭募金	法人募金	職域募金	学校募金
	金額	金額	金額	金額	金額
昭和54	—	—	—	—	—
59	7,157,775	134,885	1,684,500	124,243	372,528
平成元年	8,005,773	66,217	1,673,500	111,600	306,582
6	10,888,425	32,134	1,960,000	208,357	246,906
11	12,124,980	151,540	2,220,000	194,142	266,087
16	12,270,875	94,287	1,866,000	186,971	225,482
21	11,948,967	89,371	1,357,000	133,692	124,577
26	11,461,479	204,445	1,103,500	122,210	217,645
令和元年	11,213,644	180,110	807,000	180,474	220,352

年度	その他募金	計	歳末たすけあい募金	合計
	金額	金額	金額	金額
昭和54	—	—	—	—
59	273,719	9,747,650	2,290,870	12,038,520
平成元年	531,781	10,695,453	2,238,096	12,933,549
6	340,461	13,676,283	3,277,863	16,954,146
11	202,005	15,158,754	3,864,779	19,023,533
16	327,709	14,971,324	3,764,943	18,736,267
21	232,904	13,886,511	3,684,327	17,570,838
26	57,634	13,166,913	3,564,478	16,731,391
令和元年	42,860	12,644,440	3,477,426	16,121,866

2. 配分金状況

(1)在宅者配分

件数:人数・金額:円

年度	知的・肢体不自由児者		要保護児童		在宅老人		生活困窮世帯		居場所支援		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
昭和54	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
59	493	577,870	1,960	186,200	640	726,200	648	825,000	—	—	3,741	2,315,270
平成元年	537	401,400	1,461	318,800	781	724,977	1,005	774,300	—	—	3,784	2,219,477
6	738	742,300	1,959	864,000	962	1,180,360	359	383,400	—	—	4,018	3,170,060
11	728	726,900	2,734	1,525,996	787	920,483	292	501,400	—	—	4,541	3,674,779
16	752	803,650	1,173	1,759,500	630	960,793	—	—	8	53,000	2,563	3,576,943
21	509	759,750	1,243	2,486,000	537	1,344,280	—	—	3	119,800	2,292	4,709,830
26	329	553,200	1,312	2,624,000	695	1,712,689	—	—	20	195,000	2,356	5,084,889
令和元年	116	98,600	155	607,000	1,002	2,467,143	—	—	33	330,000	1,306	3,502,743

※平成16年度より配分事業の内容を一部変更

社会福祉法人 江南市社会福祉協議会 歴代会長

初代会長

滝 一男

(昭和55年1月23日~昭和59年6月30日)



二代目会長

川瀬 敏夫

(昭和59年7月1日~平成4年1月22日)



三代目会長

牧野 宏俊

(平成4年1月23日~平成10年1月15日)



四代目会長

中島 清喜

(平成10年1月23日~平成19年5月31日)



五代目会長

松岡 清司

(平成19年6月1日~平成23年5月31日)



六代目会長

陸浦 歳之

(平成23年6月1日~平成29年6月1日)



七代目会長

石川 勇男

(平成29年6月1日~現在)

